



【教育目標】 自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する。
【一学校一改善】 ルールメイキング (継続) 先手あいさつ 一人一入賞

市郡総合体育大会を終えて

市郡総合体育大会が6月1日(水)の陸上競技を皮切りに、6月14日(火)にかけて開催されました。天候にも恵まれ、全ての競技が予定通り実施されました。大会前の推戴式で、試合に臨む選手に対して、以下の話をしました。

- 各部のキャプテンの力強い言葉で試合に臨む決意の強さを感じました。3年生にとっては集大成の大会となります。これまでの練習の成果を十分に発揮してください。
- 勝ち負けは試合が終わるまでわかりません。途中どんなに点差が離れていても、油断したり、諦めたりしてはいけません。ベストを尽くすんだという思いを強くもって、最後まで集中力を切らさずに頑張ってください。
- 総体に出場する皆さんに次の言葉を贈ります。「いつものように、いつもの調子で、いつもの力を出し切ろう」
各部の選手の皆さんが、チーム一丸となって自分の力を出し切り、納得のいく結果を収めることを期待します。ファイト！頑張ってきてください。

本大会では、どの競技会場も、仲間と共に勝利を目指し、最後の瞬間まで奮闘する姿がありました。結果にかかわらず、保護者や顧問の先生、関わってくださった方々へ感謝の気持ちを伝えている姿がありました。

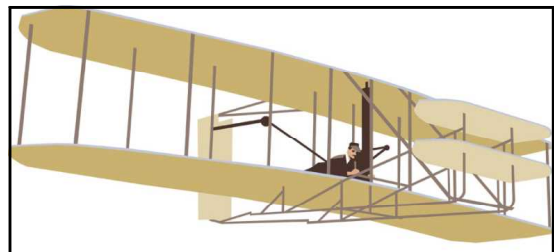
3年生の中には、市郡総体で部活動は終わりました、という生徒もいます。「有終の美」という言葉がふさわしい締めくくりでした。これからは、それぞれの進路の実現に向けて、引き続き努力を続けて欲しいものです。

また、県大会へ進む皆さん、これから新たな大会へ向かう皆さん、次の舞台で、これまで培ってきた力により磨きをかけ、最大限の力を発揮できるよう願っています。

そして、今回で、3年生の後を引き継いだ新チームのみなさん、必ず迎えることになる最後の舞台に備え、目標をしっかりと定めて、日々の鍛錬を積み重ねていくことを期待しています。ファイト！西紫原中生徒諸君！

未来に向けて今ある日常を大切に

アメリカのライト兄弟が飛行機を発明するより早く、物体が浮遊する原理を発見したのは、二宮忠八という日本人です。忠八少年は、ある日、羽ばたくことなく滑空してくるカラスに着目します。その様子を見ながら、向かってくる風を翼で受け止め、その空気抵抗を利用すれば、翼を羽ばたかせなくても空を飛ぶことができるのではないかと考えたようです。まさしく、物体が浮遊する原理の発見です。目の前で起こっていることに疑問をもち、カラスの飛び方を注意深く観察したからこそ、この大発見に結び付いたわけです。



これから訪れる社会は、AIやロボットの台頭で多くの職業に人が関わらなくなっていくと言われていきます。そのような社会の中で求められるのは、既存モデルの踏襲ではなく新しい価値を生み出していく資質・能力です。しかし、そのような資質・能力は、すぐに見につくものではありません。学校での教科等の学習を基盤として、教科等で学んだことを生かして、様々な経験を経て身に付くものです。

私たち大人は、子供たちに、まだ見ぬ未来を創り、生き抜くために必要な資質・能力を身に付けさせる責任を担っています。今ある日常を大切に、日頃の学習に粘り強く取り組む姿勢や社会で生きるための行動様式など、今確実に身に付けさせることが大切です。これから訪れる一人一人の未来のために・・・